

2026（R8）年度あかし共創プラットフォーム市民提案助成金事業 採択事業一覧

■ 通常枠（100万円）

	グループ名 / プロジェクト名	プロジェクトの概要
1	明石新浜軒先マルシェ実行委員会	大観小学校区のうち、南部（材木、日富美、大観、岬、港）エリア全域を「まち全体が商店街」と見立て、「食べる・買う・巡る」をキーワードに、買い物イベントを実施。空き家、自宅の軒先、駐車場を貸すという住民も募り、立ち寄れる場所を点在させながら、買い物したり見学したりしながらまちあるきできる仕組みを構築する。また、空き家問題について考える社会実証目的を持つため、空き家相談のブースも設けるなど、地域課題解決に向けた継続的な取り組みにつながる。
	明石新浜軒先マルシェ	
2	明石デザインラボ	地域の事業者がデザインを学んだり、クリエイター同士が繋がったりすることで発信力を持てるよう、地域でデザインを活用しているゲストを招き、事例・知見を発信するイベントを定期開催したり、地域の事業者が気軽にデザインの悩みを相談できる窓口を設置する。また、CHANTO株式会社と連携し、明石のクリエイター育成・ネットワーク構築に取り組む。
	明石デザインラボ	
3	明石名物名所カード製作実行委員会	明石のそれぞれの地域で大切に語り継がれてきた逸話、守られてきた寺社仏閣などの建造物、愛されてきた名物名産品、それらにスポットライトを当て「明石名物名所カード(仮称)」としてカード化する。そして、名物名所を訪れ、写真を撮影するなど、設定する基準のタスクを達成した方に、明石名物名所カードを配布することで、地域への誇りや愛着（シビックプライド）を育み、明石への郷土愛を醸成する。
	名物名所カードで掘り起こす!! 明石の宝☆ ～歴史や文化を知ることによって郷土愛を深めよう～	
4	株式会社柿野工務店	明石市内の中小企業は、慢性的な人手不足と業務過多に直面しており、清掃・資材整理・データ入力・書類整理といった非中核業務に人手を割く余裕がなく、生産性の低下を招いている一方で、明石市内約100件の就労支援施設は、安定した受注先を確保できず、兵庫県のB型事業所の平均工賃月額は20,664円にとどまっている。施設には「できる仕事」があるのに、企業との接点がなく、企業には「出したい仕事」があるのに、どう切り出せばいいかわからないという、「つながらない」状態を解消する。
	AIを活用した明石市内の企業と就労支援施設をつなぐ 「業務切り出し・マッチングプラットフォーム」構築事業	
5	くらしと流域ラボラトリー	明石市民が慣れ親しんだ「海」で起きている貧栄養の問題を起点に、森・里・川・海のつながりによる自然循環（＝流域水循環）の仕組みを体感することで、一人ひとりも自然循環の一部であることを自覚し、暮らしのあり方、地域の捉え方が変わるきっかけとなるプログラム（①ツアー、②フィールドワーク、③講演、④ワークショップ）を開催する。
	豊かな海を育む水は、どこから流れてくるのだろうか？	
6	手話でコミュニケーションができる居場所	聴覚障がい者や高齢聴覚障がい者が共に食事を楽しんだり、運動やレクリエーションを行える居場所をつくる。
	手話でコミュニケーションができる居場所プロジェクト	
7	林っ子共創プロジェクトチーム	小学校の学習の時間において、地元企業による特別授業を実施したり、児童と共同で商品を開発することで、「生きた学習の場」を提供する。
	「林っ子×地元企業」未来共創プロジェクト ～学びと産業が循環する持続可能なまちづくり～	
8	めいまいアクティボ	シャッター商店街となっている「バザール明舞」の空いたスペースを、こどもたち自身でDIYなどをしたり、こどもたち自身が自分たちの居場所のあり方について意見を出し合い、「もっとこどもたちが安心して」過ごせる場所に変えていく。
	あさぎりこども居場所整備事業	
9	Woman Life+ Lab	明石市内の小学校～大学、保護者・教育関係者、企業・団体を対象に、女性の心身の変化やライフステージに関する基礎知識を学ぶ教育プログラムや、女性のウェルビーイングをテーマにした研修等を、教育・医療・地域・企業がそれぞれの専門性を活かして連携しながら実施し、「体験」や「対話」を通じて共感を育み、制度や立場を超えて支え合う関係性の構築を目指す。
	女性のウェルビーイングからはじまる 共創型ライフデザイン教育モデル構築事業	